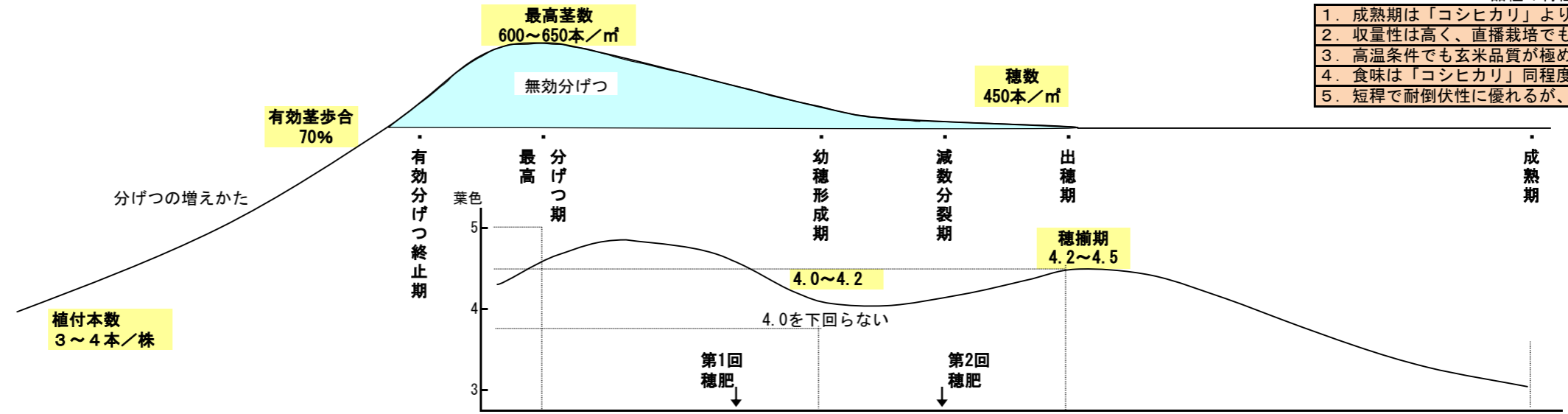


# 「てんこもり」の栽培ごよみ

## 収量構成の目安

収量構成	目安
㎡当たり最高茎数 (本)	600~650
有効茎歩合 (%)	70
㎡当たり穂数 (本)	450
平均一穂粒数 (粒)	70
㎡当たり着粒数 (百粒)	300~320
登熟歩合 (%)	85
玄米千粒重 (g)	22.5



品種の特性	
1.	成熟期は「コシヒカリ」より7日程度遅い
2.	収量性は高く、直播栽培でも収量が安定している
3.	高温条件でも玄米品質が極めて高く、安定している
4.	食味は「コシヒカリ」同程度で美味しい
5.	短稈で耐倒伏性に優れるが、紋枯れ病にやや弱い

月日	4月	5月	6月	7月	8月	9月		
草刈時期		★	★	★	★	★		
生育区分	育苗期	田植期 活着期	有効分げつ期	無効分げつ期	幼穂形成期 穂ばらみ期	出穂期 登熟期	収穫期	
水管理		やや深水	浅水管理 軽めの田干し	中干しの徹底	間断かん水	幼穂形成期以降は飽水管理 (足跡の水が切れないように管理)	出穂から20日間は湛水状態を保つ	落水を急がない
栽培管理のポイント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 播種量は乾籾で一箱当たり 120g 以下としてよい苗を作る</li> <li>・ 田面の均平をよくする</li> <li>・ ゆっくりと耕起し、作土 15cm 以上を確保する</li> <li>・ <b>土づくり資材の散布</b></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 播種量は乾籾で一箱当たり 120g 以下としてよい苗を作る</li> <li>・ 田面の均平をよくする</li> <li>・ <b>育苗施設は育苗ハウスの外で散布する</b></li> <li>・ <b>病害虫予防のため育苗施設を行う</b></li> <li>・ <b>基肥量は地区基準量を守る</b></li> <li>・ 一株の植付け本数は 3本とし、3cm程度の深さに植える</li> <li>・ 田植機の株数設定は 60 5 70 株/坪 に設定して作業を行う</li> <li>・ 田植後3日間はやや深水として活着を早める</li> <li>・ <b>良質の茎を早く確保する</b></li> <li>・ 全層施肥の場合は早期追肥を田植後7日以内に施用する</li> <li>・ 活着後は浅水管理とし、日中は止め水で田水温を高める</li> <li>・ 除草剤散布は適期に行い、環境汚染に配慮し1週間程度は止水とする</li> <li>・ 除草剤散布は適期に行い、環境汚染に配慮し1週間程度は止水とする</li> <li>・ <b>適正な中干しにより、根の活力を高めるとともに過剰分げつを抑制する</b></li> <li>・ 早めに手溝を掘り、水のかん排水の効率化を図る</li> <li>・ 中干し開始は遅れないよう確実に進行（田植後1か月を目安）</li> <li>・ 中干し後は間断かん水をくり返し土壌を固くする</li> <li>・ 幼穂形成期の葉色は 4.0 を下回らないようにする</li> <li>・ <b>畦畔草刈りでカメムシ密度を下げる</b></li> <li>・ <b>1回目穂肥は幼穂長 1mm を確認してから行う</b></li> <li>・ <b>分施肥系の場合</b></li> <li>・ <b>2回目穂肥は1回目の10日後に確実に進行</b></li> <li>・ <b>本田防除の徹底（適期防除の実施）</b></li> <li>・ 穂揃期の葉色を 4.2 5 4.5 に誘導する</li> <li>・ 圃場全体に水が行きわたっているか確認する</li> <li>・ 湛水期間はこまめに水を入れ、田水温の上昇を防ぐ</li> <li>・ 圃場全体に水が行きわたっているか確認する</li> <li>・ 過乾燥による胴割米を発生させない</li> <li>・ 仕上水分 14.5 5 15.0 %</li> <li>・ 適期内に刈取り、刈り遅れのないように注意する</li> <li>・ 籾の黄化率 85 5 90 % 程度が刈取り適期</li> <li>・ 収穫前に必ずクサネムやヒエなどの雑草を抜き取る</li> <li>・ フェーン時はかん水して、葉身の萎れを防ぐ</li> <li>・ 刈取り予定日の5 5 7日前まで間断かん水する</li> <li>・ 稲わらの腐熟を促進するため、秋起こしを行い、排水溝を設置する</li> <li>・ 土づくり肥料はそれぞれの基準量を確実に施用する</li> <li>・ 土づくりに努める。</li> </ul>						